『房南地区学校のあり方を考える会』における「保護者委員」の意見結果及び地区保護者等との意見交換状況について

（「房南地区学校のあり方を考える会」について）

■ 委員　１０名（小学校保護者３名・未就学児保護者３名・地区代表４名）
■ 検討過程　令和４年１０月～令和５年６月

（協議内容）

□ 保護者として考える望ましい学校規模について
- ✓ 複式学級の学校規模でも良いので、地域に学校を残して欲しい。
- ✓ １学年単学級での教育環境を望む。
  ［市が示す最低限の学校規模（１学年 15 人，小学校全体 90 人）以上］
- ✓ クラス替えが可能となる学校規模での教育環境を望む。

（協議経過）

日　付	内　容
令和４年７月３日	保護者・地区説明会（基本指針説明、地区協議方法に関する意見交換）
令和４年 10 月 26 日	「学校のあり方を考える会」第１回会議 （組織規約の決定、意見集約化の手法検討）
令和４年 12 月７日	「学校のあり方を考える会」第２回会議 （学校規模に関するメリット・デメリット／論点整理など）
各保護者委員が“保護者として考える望ましい学校規模について”検討する期間	
令和５年２月３日	「学校のあり方を考える会」第３回会議（保護者委員／意見交換）
令和５年３月 28 日	「学校のあり方を考える会」第４回会議（保護者委員／意見集約化）
令和５年４月 21 日	保護者説明会（ＰＴＡ役員会へ周知依頼）
令和５年４月 25 日	保護者説明会（案内通知発送／（現）小学校・未就学児保護者）
令和５年５月 26 日	保護者説明会（～令和５年６月９日まで意見聴取期間）
令和５年６月 27 日	「学校のあり方を考える会」第５回会議 （意見聴取結果を含め、保護者委員の意見決定）
令和５年７月 12 日	保護者通知（保護者委員の決定意見を小学校・未就学児保護者に周知）
令和５年８月５日	神戸地区（区長会）にて保護者意見の説明
令和５年８月 15 日	神戸地区（地区住民への回覧／保護者委員の決定意見）
令和５年８月 17 日	富崎地区（区長会）にて保護者意見の説明
令和５年８月 21 日	富崎地区（地区住民への回覧／保護者委員の決定意見）

（協議結果／保護者委員意見）

結　論
① 小学校・中学校共に、クラス替えが可能となる学校規模での学校再編を望む ※ 小学校は、国が示す標準的な学校規模（１学年２～３学級）を超えるような再編は望まない。 **② 市全体の学校再編を進めるなか、小学校に関しては、保護者・子供の「選択肢」として市内に小規模校を残す必要性がある。** ※ 小規模校であっても、長期間の学校生活において、人間関係・社会性を育むため、市が示す最低限の学校規模（学年 15 人以上）を確保すべき。それらの確保が困難な場合（複式学級規模含む）、その地域の保護者・子供がその学校に通学させなくなる可能性がある。 ※ なお、小規模校として学校が存続した地域の保護者・子供にとって「標準学校規模」への通学支援（スクールバス運行等）は、公平性の観点から他地域同様に実施して欲しい。
理　由
① より多くの友人と様々な経験をさせてあげたい。 （人間関係の固定化回避） （新たな人間関係を構築する機会を、小さなうちから経験させたい） （複式学級での教育環境を回避させたい） ② 多様性を尊重する現代社会や、学校環境を変える必要性が発生した場合（人間関係・不登校など）において、保護者・子供に「選択肢」を残す必要性がある。
各委員の意見　（①：クラス替え可能な規模での学校再編を望む意見）
【 小学校のあり方に関する事項 】 ○ 自分の子供を複式学級に通わせることを避けたい。【多数意見】 （デメリットが多い：授業環境・多様な経験・教員負担など） ○ クラス替えができない場合、人間・交友関係が固定化されてしまう。【多数意見】 ○ 他の学校（標準規模）と指導方法や多様な経験値などでの差が生じてしまう不安がある。 ○ 私自身、旧神戸小・房南中を卒業したが、クラス替えを経験出来なかった。高校へ入学して規模感に衝撃を受け、高校に馴染めなくて退学した同級生も複数いた。小さい年代から、多くの同級生に触れあっていた方が良いと思う。 ○ 子供は、房南こども園～中学校の 10 年以上同級生が変わらない環境で過ごしてきたが、高校での様子を見ると、新しい人間関係を築くことに苦労をしている状況が見て取れる。子供が高校生になる前は、房南学園の良さを感じていたが、このような会議に参加して様々な角度から子供にとって最善なのは？と考えると、小さなうちから一定の集団生活の中で友人関係を築く力を身に着けさせることが必要だと思った。 ○ 中学・高校といずれは、一定の集団規模で学校生活を送ることとなる。その時に（向き不向きがあると思うが）集団生活に馴染むことが出来るのか？小学校６年間をあまりに小さな規模で過ごした後のことを考えると、保護者として率直に不安な気持ちがある。 ○ 小学校では、人間関係・社会性を学ぶことが一番重要だと考える。人間関係を学ぶためには、最初は同学年（同級生）とのコミュニケーションから始まり、異年齢（前後の年代）へ繋げていくものであり、色々な人間、様々な考え方に触れさせるべきと思う。それらの過程・経験が、子供自身の考え方・視野が広がる一助となるのであって、そのためにはクラス替えが出来る規模の環

境が良いと思った。

○ グループ活動や運動遊びをするときも、人数が多い方が充実し幅も広がる。

○ 人間関係がこじれた際、逃げ場があるという環境（クラス替え）を用意することが良いと思う。

○ 人数が少ないために、子供達がやりたいことを経験させてあげられない（例：ドッチボールなどの集団競技）のは良くないと思う。また、お互いをよく知りすぎていて喧嘩が少ない。自分がちょっと我慢すれば･･･で終ってしまう。色々な人と接して、時にはぶつかり自分の思い通りにならない場合への対処（折り合いをつける）、それらを学ぶことが大切だと思う。

○ 子供にコミュニケーション能力を高めて欲しい。小さいうちから色々な同級生と交友を持てる環境下で、トラブル・喧嘩などを含め様々な経験をさせてあげたい。６年間を少人数で仲良く過ごすことは、その時は良いかもしれないが、中学・高校では必ずそれらのトラブルや問題に当たることもあり、その時は既に思春期に入っているため、より深い悩みに繋がると思う。小学校低学年のうちから、色々な同級生などと交わり、解決方法を学ぶ力・自分の性格に合う友達を自分で探す力・友達の間に入る力、それらを身につけさせたい。

○ 規模が小さいと子供の個性が目立ってしまう。良い目立ち方もあれば悪い目立ち方もある。基本的には、個性なので良い・悪いはないと頭では理解しているが、もう少し学校規模が大きければ、「こういう人も考え方もあるのだ」と、子供自身が気づき・知ることができると思う。少数意見かもしれないが、そういう事を思っている保護者がいることを理解して欲しい。

○ 特別な支援を要する子供達同士でのコミュニティ形成の必要性を考えるべきと思う。

※ 保育士の経験からも、今では、特別支援学級に行く児童もかなりの確率で発生している。学校規模が少なく母数が限られると、同級生で特別支援学級に在籍する同じ境遇の子がいない場合も発生してしまう。子供の気持ちに沿った細やかな配慮という意味でも、一定の学校規模が必要だと思う。

※ 同学年で１人だけ特別支援学級へ在籍する場合よりも、北条・館山小規模のように、新入生５０人のうち５～６人で特別支援学級や教科によりクラス移動するような環境の方が、その子供にとっても良いと思う。(僕一人だけ？といった環境ではなく、あの子もこの子もいるような環境を子供に与えた方が良い。)

※ 保護者にとっても、保護者間（同じ境遇）で相談し合える環境にも繋がる。

○ 房南学園の体験入学時に現在の２年生（20 人以上）が新入生の世話をしていたが、新入生は同学年が少人数（８人）であり子供が気後れしていたように感じた。一方、20 人以上いる学年の子供達は楽しそうだった。今回の協議に参加させて頂いて、最初は複式でも地域に学校を残した方が良いと思っていたが、子供の教育環境として他の保護者の考えを含め色々なことを考えると、学校を再編することに納得している。

○ 大規模校ではなく２～３クラス程度（国の標準規模）が、規模的にも良いと思う。

【 中学校のあり方に関する事項 】

○ 学年１桁の人数では、あまりにも規模が小さすぎ、速やかに学校再編すべき。【多数意見】

○ 中学校は３年間しかない。社会に出る前の最後の（義務）教育であり集団生活・部活動のことを含め、一定規模が必要と考える。

○ 中学校は、館山に１つでも良いと感じる。(新規建設中の館山中に)

○ 今後の推計値を見ると、中学校を存続させることは子供にとって良い環境（学校運営・部活動）とは思えない。自分の子供がやりたい部活が無い場合、学区外に通うこととなる。

○　現在でも、ぎりぎりの人数で部活動を行っており、１人の生徒の体調不良でチーム全体が大会に出場できない状態である。怪我をした子供が無理をしている状況もあり、かかるプレッシャーも大きくなっている。

※ 房南地区では他の地区より協議日程が遅くなったことから、他地区の状況を踏まえ、市内に小規模校を残すことの必要性について、検討した結果、追加意見として纏めたものです。

各委員の意見（②：市内全体の学校再編を見据えた小規模校の必要性）

○　市全体の学校再編の中で、複式学級ではない単一学級規模の学校を市内に残すことも必要とも思う。（１学年１５人以上）【多数意見】

○　小規模校といっても、複式学級規模であれば保護者としてその学校には通わせない【多数意見】

○　多数集団に馴染めない、学校を変えなければならない突発的な事が発生したとき、別の受け皿があることは保護者としてありがたい。【多数意見】

○　特色を極め入学したいと思う児童も増やしていければ良い。

○　小規模校を残す場合の設置場所については、地域性・地域資源などを踏まえて検討して欲しい。

○　小規模校が残る地域の保護者にとって、標準規模校 or 小規模校で、保護者同士の板挟みになってしまうのが心配（標準規模校に通わせたいが、そうすると更に人数が減ってしまう）

各委員の意見　（学校再編を望まない意見）

○　子供が少なくても、子供達は少ないながらも工夫して楽しんでいる。

○　保護者と学校の連携も密になるため信頼関係も生まれており、保護者間同士もどこの誰だか認識し合っているため安心感がある。

○　子供を見ても、２０人程度のクラスだが喧嘩もなく、親同士の付き合いを含めて仲もよい。

○　中学校を含め先輩後輩の付き合いなど、社会性を学んでいると感じる。

○　房南から転校していった子がいたが、大きな規模の学校が合わずに戻ってくる子もいた。小さな学校を残すことも考えるべきと思う。

○　地域産業の維持としての観点から考えると、学校は地域に残した方が良いと思う。

○　集団で揉まれるメリットもあるが、マンツーマン指導に近いほど、先生の直接的な指導時間が増えるため学力は向上する。（持論ですが）

○　小学校は、自宅から歩いて通える距離が良い。地域の自然・景色に触れ合い、道草しながら登下校すること、それらの原体験が一番大切なことだと思う。小・中学校は小規模で、高校からクラス替え規模となっても１～２カ月すれば環境に慣れると思う。小さな年齢で育まれる感性は、後では身につかないことでありそこを一番重要視したい。

○　房南学園の特色（小中一貫校）をもっと打ち出し、他の地域から子供が通ってきて学校を維持できれば一番良い。

○　房南地区は本当に良いところだと思っている。少子化のなかで子供の教育環境に着目すると学校再編は致し方ないとは理解できるが、教育上の支障が低い一定の規模がある間は、可能な限り小学校を存続して欲しい。